

## 主題：神のエコノミーと分与

メッセージ 10

神聖な造り変えの中で、神聖な同形化のために、神聖な三一の分与を享受する（1）

聖書：Ⅱコリント 3:18、ローマ 8:28-29、12:2、ピリピ 3:10、ヘブル 10:19-20、Ⅰペテロ 2:21

I. 造り変えられるとは、キリストがわたしたちの存在の中へと加えられて、わたしたちであることを置き換え、キリストがわたしたちの中で増し加わって、わたしたちの天然の命が減少することです。それは神聖で霊的な新陳代謝であり、命を与える霊としてのキリストの新しい要素を加え、わたしたちの天然の存在の古い要素を排出して、わたしたちを新創造とすることによります——Ⅱコリント 3:18、ローマ 12:2、ガラテヤ 6:15、ヨハネ 3:30、コロサイ 2:19：

A. わたしたちのクリスチャン生活と召会生活は、「栄光から栄光へ」です。栄光とは復活したキリストご自身、命を与える霊としての「開花する」キリストです——Ⅱコリント 3:18、4:1, 16-18、ヨハネ 12:23-24、17:1、ルカ 24:26：

1. 今やその霊がわたしたちの霊に内住しており、わたしたちは祈り、御言を読み、主の御名を呼び求めることによって、ますますわたしたちの霊を活用する必要があります——エペソ 6:17-18、詩 71:14、箴 4:18-23、士 5:31、マタイ 13:43。
2. わたしたちは、わたしたちの思いの霊の中で新しくされることによって造り変えられつつあります。ミングリングされた霊はわたしたちの思いの中へと拡大して、それに浸透し、それを所有し、征服し、服従させ、統治します。その時わたしたちは自動的に感情と意志において新しくされます。なぜなら、思いは感情を調整し、意志に影響するからです——ローマ 12:2、8:6、エペソ 4:23、参照、ローマ 7:25。

B. 思いが新しくされることによって造り変えられた結果、信者たちは召会を建造するための尊い材料、すなわち金、銀、宝石となります——Ⅰコリント 3:9-12、詩 68:11-13、19-20：

1. 金、銀、宝石は、三一の神（金としての神聖な性質における父なる神、銀としての贖いにおける子なる神、宝石としての造り変える働きにおける霊なる神）のさまざまな経験と属性を表徴します——Ⅰコリント 3:12前半。
2. 造り変えは、三一の神の属性を、追い求める信者たちの中へと造り込んで、彼らの美德となることです。そのような造り変えが起こるのは、ただ正常な召会生活の中で、何人かの成就する者、「造り変える者」を通してであり、彼らは造り変える三一の神と協力します——雅 1:10-11、エペソ 4:11-12。
3. 神聖な命の潮流が、熱と圧力のただ中で、わたしたちが絶えず主と共に語る実行を通して流れるとき、わたしたちは神の神性にあずかり、それはわたしたちを、命と性質において神と同じにします——ピリピ 2:5、4:6、ヨハネ 3:15、Ⅱペテロ 1:4。

II. 造り変えの結果は神の御子のかたちへの同形化であり、それは彼が多く兄弟たちの間で長子となるためです。キリストへの同形化はわたしたちの運命、またわたしたち

**の目標です——ローマ 8:28-29 :**

- A. 造り変えは内側のものであり、形における新陳代謝的な変化と関係がありますが、同形化は外側のものであり、形 (form) をかたち (image) へと形成することと関係があります。
- B. わたしたちは自分の自己の様からキリストの命の中で救われる必要があります、それは神の子たちの外観を帯びるためです。自己の様から救われることは、神の長子のかたちへと同形化されて彼を団体的に表現することです—— 5:10。
- C. わたしたちは現在、円熟の過程に、すなわち、造り変えと同形化の過程にあり、それは神の表現という主の回復のために、実際において神の子たちとなるためです——ヘブル 6:1 前半、2:1, 3, 10-11。
- D. 同形化とは命の形成、すなわち、わたしたちを神の長子の形、原型、かたちへと形成することです。
- E. これに関して、わたしたちの自己の努力は役に立ちません。ただ一つの事だけが有効です。それは、わたしたちの中で成長する神聖な命が、わたしたちを聖別し、造り変え、形成することです。わたしたちが必要とするのは、神聖な命をさらに完全に経験することです——詩歌, 298 番。

**Ⅲ. わたしたちはキリストの復活の力によって彼の死に同形化され、内省の自己から解放されつつあります——ピリピ 3:10. 雅 2:8-14 :**

- A. わたしたちはキリストの中へとバプテスマされ、キリストの中へと入れられています。わたしたちが彼の中にあるので、彼が経過したことは何であれ、わたしたちの歴史です——ガラテヤ 3:27. I コリント 1:30。
- B. わたしたちは、彼の中にあり、彼と共に十字架につけられているという明確なビジョンを主が与えてくださるよう、祈る必要があります。ローマ第 6 章 6 節における「次のことを知っています」は、実は霊的なビジョンにおける事実を見ることを指しています。
- C. わたしたちの古い人、わたしたちの墮落した天然の存在はキリストと共に十字架につけられているという事実に基づいて、わたしたちは内住の霊と協力し、わたしたちの実際的な生活の中で、わたしたちの存在の表現としての肉を十字架につけなければなりません——ガラテヤ 5:16, 24。
- D. その霊によって体の行ないを死に渡すことは、わたしたちが習慣的に肉にしたがって生きないことを意味します。これは、わたしたちの意志を活用することを通しての主との協力を必要とします。わたしたちは強い決意をしてこう言う必要があります、「主よ、わたしはあなたの側に付きます。わたしはあなたの死へと同形化されたいのです。主よ、わたしをあわれんでくださり、わたしがもはや習慣的に肉にしたがって生きるのではなく、わたしの天然の命の習慣をすべてわきに置くようにしてください」——ローマ 8:13. I テモテ 4:7. ピリピ 1:21 前半。
- E. わたしたちはキリストの死の原型を、わたしたちの生活の原型とする必要があります。キリストの死の原型は、彼の人の命を絶えず死に渡して、彼が神の命によって生きることを指しています——ヨハネ 6:57. イザヤ 7:14-15。
- F. わたしたちはそのような原型に同形化されつつあるとき、わたしたちの人の命に死

に、神聖な命を生きます。こうして、わたしたちは、わたしたちを内省の自己から救い出すキリストの復活の力によって、彼の死に同形化されます——雅 2:9, 14。

- G. キリストの死に同形化されることは、わたしたちの日常の経験でなければなりません——I コリント 15:31。
- H. 十字架を担うことは、キリストの死の殺しの下にとどまって、わたしたちの自己、天然の命、古い人を終わらせることです——マタイ 16:24。
- I. 十字架を担うことの意義は、十字架から離れないで、キリストの死にとどまり、彼の死をわたしたちのホームとすることです。十字架を担う人は、十字架と一であり、十字架から分離できません——ガラテヤ 6:17. 参照、啓 21:21。
- J. 自己を否み、十字架を負い、わたしたちの魂の命を失うことの真の経験は、聖霊の交わりの中においてはじめて起こります。その時わたしたちは神をわたしたちの霊の中へと受け入れ、わたしたちの魂を通して神を表現し、彼はわたしたちの非常な喜びとなります。わたしたちが聖霊の交わりの中に生きてはじめて、わたしたちの見ることは真の見ることであり、わたしたちの経験は真の経験です——II コリント 13:14. I ヨハネ 1:3. 詩 43:4 前半。
- K. 信者たちが自分の魂の命を失うことは、彼らが自分の父、母、配偶者、子供たち、兄弟たち、姉妹たち、さらには、彼ら自身の魂の命を憎む（主以上に愛さない）ことであり、それは、彼らの魂が来たるべき時代に経綸上の懲らしめから救われて、主の喜びにあずかることができるためです——マタイ 10:37-39. ルカ 14:26. I ペテロ 1:9. マタイ 25:30. 24:51. ヘブル 10:39。

**IV. わたしたちは、イエスの血によって至聖所の中へと入ってイエスに従うことにより、神聖な造り変えの中で、神聖な同形化のために、神聖な三一の分与を享受します——19-20 節. I ペテロ 2:21 :**

- A. 今日の至聖所は、主イエスがおられる天にあります。天にいるそのキリストは、今やわたしたちの霊の中にもおられます。わたしたちは霊に戻って霊を活用するとき、天の門の中へと入り、恵みの御座また天のはしごとしてのキリストに触れ、徹底的に神が注入され、神に結合されます——ヘブル 9:12, 24. II テモテ 4:22. I コリント 6:17。
- B. わたしたちは霊の中の恵みの御座、すなわち、享受できる神の支配する臨在としてのキリストに進み出るとき、あわれみとしての彼を受け、わたしたちの状況と必要にまさしく符合する、時機を得た助けとなる恵みとしての彼を見いだします——ヘブル 4:16。
- C. ペテロがどのような死に方で神の栄光を現すかを示した後、主イエスは彼に言いました、「わたしに従って来なさい！」——ヨハネ 21:19 :
  - 1. わたしたちが従って行くべき「わたし」は、わたしたちの中におられます。わたしたちが主に従って行くのは自分自身の意志にしたがってではなく、彼の導きにしたがってでなければなりません——18 節. ローマ 8:14。
  - 2. さらに、わたしたちは他の人に注意を払うことなく彼に従って行かなければなりません。ペテロがヨハネについて尋ねたとき、主はペテロに、ヨハネに起こることはペテロと何の関係もない、ペテロは主に従って行かなければならないと告げ

ました——ヨハネ 21:20-22。

D. 主に従って行くとは、幕の内側に入って行き、営所の外に出ることです——ヘブル 6:19-20. 13:13. 出 33:7-11 :

1. 幕の内側にいるとは、至聖所、すなわちわたしたちの霊の中へと入ることであり、そこでは主が栄光の中で御座に着いています。また営所の外に出るとは、宗教の外に出ることです。主はそこから拒絶の中で追放されました—— I ペテロ 2:21。
2. わたしたちは霊の中へと入ることによって幕の内側に入るとき、天のキリストの甘さを味わい、営所の外に出て、地とその愛を放棄することができるようにされます。
3. わたしたちは霊の中において、天のキリストを享受すればするほど、ますます宗教の営所の外に来て、苦難を受けたイエスに従います。
4. 幕の内側にいるとは至聖所に、すなわちキリストにあずかり、彼を隠されたマナ、芽を出した杖、命の法則として享受する領域に在ることであり、神の団体の表現を生み出し、彼の永遠の定められた御旨を完成します——ヘブル 9:3-4。